

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生理系分野		運動器再建生理学特論Ⅰ・Ⅲ				長谷川 健二郎	
開講年次	共通/専攻/選択			単位数			
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択			特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
運動器の病態生理を理解するために、骨、軟骨、筋、靭帯、神経など運動器を構成するすべての組織の再生治療法確立に向けて研究を行う。							
授業到達目標							
<p>1. 構造と機能</p> <p>(1) 骨・軟骨・関節・靭帯・筋肉・末梢神経の構造と機能を説明できる。</p> <p>(2) 四肢の骨・関節を列挙し、主な骨の配置を説明できる。</p> <p>(3) 椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。</p> <p>(4) 四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。</p> <p>(5) 骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。</p> <p>2. 症候</p> <p>(1) 関節痛・関節腫脹の原因と病態生理、診断の要点を説明できる。</p> <p>(2) 腰背部痛の原因を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>3. 再生医療</p> <p>(1) 脊椎椎間板周囲に生じるサイトカインバランスを説明できる。</p> <p>(2) 椎間板再生治療に関する分子生物学的手法を説明できる。</p> <p>(3) 脊髄再生治療に関する最新の知見を説明できる。</p> <p>4. 再建医療</p> <p>(1) 同種運動器移植に関する免疫学的関与を説明できる。</p> <p>(2) 各種スポーツ障害の病態生理を説明できる。</p>							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎週	水・金	7:30-8:30	長谷川 健二郎	講義	[抄読会・ 症例検討会・ 研究検討会]	運動器再建に関する最新の生理免疫学的知見を紹介し、それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟 13 階中第 1 カンファレンス室]
評価方法							
<p>【特論Ⅰ】</p> <p>(1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。</p> <p>(2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。</p> <p>【特論Ⅲ】</p> <p>(1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。</p> <p>(2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。</p> <p>ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文(症例)であること。</p> <p>特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。</p> <p>※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43頁：単位履修方法参照。</p>							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
紹介論文の要約について、添削して返却する。							
教科書							
ISBN-9781455774272, Green's Operative Hand Surgery <2-Volume Set> (7th Edition), Scott W., et al., Elsevier Saunders, 2016							
ISBN-9780323393973, Rothman-Simeone and Herkowitz, the spine <2-Volume Set> (7th Edition), Steven Garfin, Frank Eismont, Gordon Bell, Christopher Bono, Jeffrey Fischgrund, Elsevier, 2018							
参考書							
必要に応じて別途指示する。							
準備学習(予習・復習等)							
<p>(1) この5年間の関連文献を事前に約1時間程度収集し、内容を理解しておくこと。</p> <p>(2) 復習としては講義後に約1時間程度内容の分析を行い、その時点での疑問点を列挙し、その解決に取り組む。</p>							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
<p>(1) 整形外科の深い学識を獲得する。</p> <p>(2) 日本国民のみならず、全世界の人々からも信頼される医療を提供できる整形外科医育成を目的に活動する。</p>							
注意事項・メッセージ							
今回の研究結果が臨床応用されることが望まれる。							